

若竹のように「しなやかに・たくましく・すくすくと」



# 暑竹だより

呉市立天応小学校

令和3年9月3日

文責：校長 河端宏範

## いよいよ2学期！緊急事態宣言中「行動基準レベル3」からのスタート

いよいよ2学期がスタートしました。今回も放送による始業式です。ほとんどの子供たちが元気に登校してくれてくれました。先生方もそのことをとても喜びました。

1学期に行っていた学校に入る前の健康観察は、残念ながらいつも通りの光景になりつつあります。健康観察カードについては、引き続き最大限の緊張感をもって記入いただき、子供たちをご家庭から送り出していただけたいと思います。記入漏れ、押印漏れにつきましては、即、家庭連絡させていただき確認を取らせていただきます。くわしくは、中木養護教諭がしております。「健9月号」をご覧ください。

私の始業式での話は、オリンピック、パラリンピックに始まり、右の表にあります「自分の命は自分で守る」ための4つのお願いをしました。第一に、コロナ対策です。これまでと大きく違うことは、子供にも感染するということがはっきりしたことと家庭内感染の広がりがあるということです。

感染症対策を徹底し、正しく恐れて、新しい生活様式に則った生活を継続することだと考えています。引き続き「学びを止めない」ための工夫を行いつつ、子供たちに我慢してもらうことがある中でも、「かがやき」を失わないよう教育活動を進めて参ります。ご家庭でも、子供たち及び家族の命を守る取組を継続してください。

<b>かがやき</b> 1 コロナ対策 2 防災教育 3 返事・あいさつ・ くつそろえ 4 考える授業	<b>命</b> かがやけ <small>自分の命は自分で守る 天応の大人の命は子どもが守る 当たり前が命を守る</small>
--	--

## 修学旅行・野外活動に向けて

今年度の修学旅行（6年生）は、9月16日（木）、17日（金）、山口方面を予定しています。今のところ緊急事態宣言が解除される予定が9月12日（日）のため、実施の方向で準備を進めています。緊急事態宣言が延期されるか、本校においてコロナ感染による臨時休業となった場合は、延期させていただきます。

また、野外活動（5年生）については、10月5日（火）、6日（水）、国立江田島青少年交流の家を予定しています。なんとか、大切な学びの機会を実現できるよう願っております。

## エマ先生とのお別れ

報告が遅れましたが、7月2日（金）にALTのエマ（Emma Hartman）先生とのお別れの会を各クラスでもちました。エマ先生におかれましては、呉を離れて日本の地でさらにスキルアップのための勉強をされるそうです。後任の先生については、コロナの影響で来日が困難なため、いつ赴任がかなうか分からない状況です。



## 義務教育学校建設工事本格化

7月7日発行の「義務教育学校開校準備便り 大きな翼」第1号をご覧になっていただけたでしょうか。令和5年度の開校に向け、開校準備委員会を開催し、1つずつ準備が進められています。今後も「大きな翼」でその様子を紹介していきます。

9月1日発出の「令和5年度義務教育学校開校に伴う校舎改修等について」のお知らせ②では、「なのはな2組」が、これまで「わかば児童会」だった教室への移転、中学校においては、「3年A組」がこれまで教材室だった教室への移転をお知らせしたところです。10月頃から、工事が本格化していく予定です。それに伴い、子供たちの安全確保等、工事に伴う、いろいろな対応について紹介していきますので、よろしくお願い致します。

## 防災集会「当たり前が命を守る」集会

8月中頃の大雨。たくさんの方が、不安な夜を過ごされたことと思います。私は、平成30年7月以降、いろいろな対策がなされ、たくさんの方の「命を守る」ための学びや「つながり」、「絆」が深まったことによって、二度とあのような状況は起こらないと信じています。そのための「防災教育」でもあります。

7月に、6年生があの日あの時を風化させないために企画し、実現した資料室「伝えよう！0706ミュージアム～あの日を忘れない～」は、7月20日まで開設しましたが、寺本教育長をはじめ、多くの方々に観ていただくことができました。そして、市本天応市民センター長様の呼びかけにより、市民センターの1階ロビーにおいて、期間は決まっていますが、展示させていただくことになりました。ぜひ、市民センターの方にも足を運んでいただけたらと思います。

7月6日に防災集会「『当たり前』が命を守る集会」が行われました。企画委員の「あいさつ」、「右側通行」、「携帯マニュアルをいつも携帯できている」等、そんな当たり前のことが一つ一つ守られてこそ一人一人の命は守られるのだという呼びかけは、子供たちや先生方の心に響いていました。

そして、6年生が4年生の時に発案した「天小体そう」がフルバージョンで披露されました。避難所生活で体力が落ちないように座ったままで誰にでもできる体操です。

最後に、平成30年7月豪雨災害当時からボランティアとして天応にかかわり続け、今も「つながり」の大切さを天応の町に伝え続けておられる「つなごう天応」のメンバーから、井上さん、本園さん、藤田さん、早稲田さんにお越しいただき、井上さんから当時の写真を見ながら、天応のために何かできないか、何ができるのかを模索し続け、今なお活動を続けておられる思いを子供たちに伝えていただきました。これからも、子供たちは「つなごう天応」の言葉通り、天応をつなぐ担い手に育っていくんだということを確認しました。

